

# 青森県下における妊産婦死亡

弘前大学医学部産婦人科

品川 信 良

青森県下においては、弘前大学医学部産科婦人科学教室、日産婦学会青森県支部、日母協会青森県支部などが協力して、次の2点の改善を具体的な目標として努力している。但し、国は勿論のこと、県当局や県医師会などからは、口頭や精神面での支援は得られても、具体的にはほとんど何も支援が得られていないのが現状である。

青森県下における、産婦人科医を中心にした具体的な努力目標

## 1. 産科医療体系のシステム化と標準化

特に中心的な産科医療施設の整備、必要なスタッフの養成、診療内容及びその水準の向上

## 2. 産科関係の母体死亡例及び重症例に関する反省と検討

昭和52年1月以降の死亡例17例等について検討している。

この1年間に得られた主な成績

私たちはかねがね、日本国内各地、特に東日本各地の主要産科施設及び剖検施設における妊産婦死亡の剖検例を集めてきたが、これらの剖検例に使用されていた薬剤を検討して、次のような成績を得た。

1. 臨床薬理及び産科の立場からするならば、妊産婦死亡は、次の3群に分けることができる。

- (1) 使用薬剤と直接関係がある死亡
- (2)     //   と間接的な関係がある死亡
- (3)     //   とは無関係な死亡

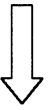
2. 上述の(1)と(2)の区別は容易でないことが多いが、これまでに私たちが集めた263例のなかには、明らかに(1)に属すると思われるものが2例、(2)又は(1)に属すると思われるものが9例あった。

## 関 係 文 献

1. 品川信良, 片桐清一: Maternal and perinatal mortality and their background in Japan. *Asia-Oceania J. Obstet. Gynaecol.* 6: 117, 1980.
2. 片桐清一, 野村雪光, 佐藤重美, 品川信良: 投与薬剤との関連性が懸念される妊産婦死亡例12例の検討, 第28回日産婦会北日本連合地方部会抄録集, 73頁, 1980年.



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



青森県下においては、弘前大学医学部産科婦人科学教室、日産婦学会青森県支部、日母協会青森県支部などが協力して、次の2点の改善を具体的な目標として努力している。但し、国は勿論のこと、県当局や県医師会などからは、口頭や精神面での支援は得られても、具体的にはほとんど何も支援が得られていないのが現状である。